

報告第9号

教育に関する事務の点検及び評価の報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育に関する事務の点検及び評価について報告する。

平成29年8月31日

西脇市教育長 笹 倉 邦 好

平成28年度

教育に関する事務の点検及び評価  
報告書

平成29年 8 月

西脇市教育委員会

《参考》

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1 教育委員会の点検・評価

### (1) はじめに

西脇市教育委員会では、西脇市教育振興基本計画「え～まち西脇!!eープラン」に掲げている「今、この時を輝いて生きる～次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり～」を根幹とし、4つの具体的な行動目標を設定し、学校教育・社会教育のそれぞれの分野において、家庭・学校・地域との連携を図りながら様々な教育活動を展開しています。これらの活動については、広報やホームページなど様々な機会を通じて情報を発信してきました。

また、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成20年度から教育行政の管理及び執行状況について点検・評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにしています。その点検・評価に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進を図ります。

### (2) 点検・評価の実施方法について

#### ア 点検・評価の対象事業について

平成28年度の主要課題についてPDCAサイクルで精査し、その主要事業を選定しました。

#### イ 点検・評価の対象期間について

4月から翌年3月までの1年間の点検・評価を実施しました。これは、1年間の点検・評価を確実に実施することにより、来年度以降の教育行政の充実・拡充に生かしていくためです。

#### ウ 評価方法について

自己評価については、5段階とし、①妥当性（目的達成のための最適の取組であるか、市が実施する必要性があるか）、②有効性（当初の目的が達成されたか）、③効率性（最小の資源で最大の成果を上げる工夫をしているか）の3点を柱とし、事業達成度及び事業推進満足度から得た次の5段階評価としました。

1	目標の達成が不十分
2	目標の達成がやや不十分
3	相当程度は目標を達成
4	目標以上に達成
5	目標を大きく上回り達成

エ 学識経験者の活用について

点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会が行った点検・評価について、2人の外部評価委員からその意見を聴取しました。

浅野 良一 氏	兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授
大西 すず 氏	元西脇市教育委員

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員名簿（平成28年度在籍）

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	笹 倉 邦 好	
教育長職務代理者	藤 原 久 和	H27.4.1～教育長職務代理者
委 員	岩 本 理 香	
	内 橋 和 彦	
	依 藤 三 枝 子	

### (2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、定例会を毎月1回開催すること、臨時会は教育長が必要と認めるとき及び2人以上の委員から請求があるときに開催することとなっており、平成28年4月から平成29年3月までの間に合計16回開催しました。

### (3) 教育委員会会議での審議事項

改正前の地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び西脇市教育長に対する事務委任規則第2条の規定に基づき、平成28年度は56件について審議しました。

	審 議 項 目	件 数
ア	学校教育及び社会教育に関する一般方針を決定すること	7
イ	県教育委員会の人事一般方針に基づき内申を行うこと	11
ウ	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること	20
エ	議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	8
オ	教育予算の見積りを決定すること	6
カ	表彰に関すること	1
キ	社会教育委員及び文化財保護審議会委員を委嘱すること	3

(審議案件のほか、報告事項等17件についても取り扱いました。)

#### (4) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事等に参加しました。その概要は以下のとおりです。

##### ア 市議会定例会への出席（教育長）

##### イ 教育委員研修会等（各委員）

- (ア) 市町村全県教育委員会連合会総会・研修会（5月）
- (イ) 女性教育委員の会総会・研修会（6月）
- (ウ) 播磨東地区教育委員会連合会総会・研修会（7月・2月）
- (エ) 近畿市町村教育委員会研修大会（10月）

##### ウ 学校行事（各委員）

- (ア) 学校園指導訪問（6月・11月）
- (イ) 入学（園）式・卒業（園）式（4月・3月）
- (ウ) オープンスクール（年間）
- (エ) 運動会・体育大会・文化祭等（9月～11月）

##### エ その他行事（各委員）

- (ア) 子育てフェスティバル（各月）
- (イ) 青少年問題協議会（6月・11月・1月）
- (ウ) 成人式、立春式、市民体育大会、子午線マラソン大会等（10月・12月・1月）
- (エ) 「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会（8月）
- (オ) 補導委員との研修会・合同活動（12月）
- (カ) その他教育委員会等関係行事（各月）

## (5) 成果と課題

本市では、平成26年3月に教育振興基本計画（後期）を策定しました。この計画は、前期計画の検証結果を反映し、今後、さらに充実・深化していきたい諸課題を解決するとともに、急激に変化する社会状況や教育を取り巻く環境などに対応していくため、「西脇市総合計画・後期基本計画」の教育に関する内容や前期計画以降に改定された教育関係諸計画等を踏まえて策定したものです。平成26年度から平成30年度までの5年間を対象期間とし、「今、この時を輝いて生きる」を全体目標と定め、4つの行動目標と連動させながら教育施策を推進しています。

学校園教育では、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」いわゆる、知・徳・体のバランスのとれた教育を目指し、「生きる力」の醸成を図るため、新学習システム等を活用した個を生かすための学習指導の推進、放課後学習支援員、スクールサポーターの配置や問題データベースの活用等による「にしわき学力向上事業」の実施、子どもの心に響く道德教育や体験活動、特別支援教育の充実や環境教育、情報教育、食育等の課題教育の推進に努めております。また、就学前教育の推進に関しては、「西脇市就学前教育・保育の推進に関する基本方針」に基づき、関係課及び関係機関と調整しながら、認可保育所の全てが幼保連携型認定こども園に移行されたことに併せて、しばざくら幼稚園1園に統合し、新たな就学前教育・保育の環境を整備しました。今後は、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づく各種研修事業を中心に推進してまいります。

学校園の施設整備では、太陽光発電設備が未設置となっておりました桜丘小学校と黒田庄中学校での太陽光発電設備設置工事の実施とともに、しばざくら幼稚園の開園に向け、遊戯室の耐震化及び保育室の改修工事を行いました。西脇小学校の整備に関しては、基本計画・基本設計の策定や実施設計を平成29年3月に完了し、平成29年度から工事を実施してまいります。

生涯学習では、情報のネットワークの構築、人材情報データベースの充実などに取り組み、新たな学習機会の創出、市民への情報を提供する環境整備を図ったことにより、イベント・事業の参加者及びボランティア人材登録者の増につながりました。

人権教育では、人権文化が日常生活の中で根付き、全ての市民の人権が尊重され、生き生きと幸せに暮らすことができる地域・社会を目指して、教育・啓発活動を積極的に行い、人権意識の高揚に努め、研修会・講演会の参加者増が図れました。今後は、体験活動を取り入れた有効な人権教育の推進を行う必要があります。

青少年健全育成では、「地域の子は地域で守り育てる」ための市民意識の向上、青少年健全育成事業の見直しと活性化、いじめ・不登校・問題行動の早期発見と早期対応、未然防止に取り組みました。その結果、成人式において社会貢献活動を初めて実施することができました。

図書館では、図書館資料の充実及び図書館利用の拡大に取り組み、平成29年1月から、こども福祉課と連携し、出生時と10か月乳児相談時に絵本のプレゼントを行うブックスタート事業を開始し、子どもの読書活動の推進を図りました。

以上のような成果及び課題を踏まえ、今後とも、PDCAサイクルを活用した事業展開と、その見直し改善を図るとともに、教育委員会として、その資質を高め、関係諸団体への指導・助言・活動支援、各種事業等の奨励等を通じ、市民から信頼が得られ、円滑で成熟した教育行政の推進に努めてまいります。



西脇市教育振興基本計画及び教育の指針における位置付け一覧

重点目標		施策項目		具体的施策項目			
1	人間力を培う学校園教育環境の充実	1	基礎・基本教育、学力向上方策の充実	1	小中学校における学力向上		
				2	魅力ある授業の創造		
				3	家庭での学習習慣定着		
		2	生きる力を育む学習の展開	4	基本的な生活習慣		
				5	読書習慣育成		
				6	道徳教育の充実		
				7	食育・健康教育の充実		
				8	国際化に対応した教育の推進		
				9	環境教育の充実		
				10	防災教育の推進		
				11	情報教育の推進		
		3	全ての子どもが学習できる教育機会の確保・充実	12	小規模特認校における特色ある教育の推進		
				13	特別支援教育の充実		
		4	学校・家庭・地域の連携の促進	14	地域に信頼される学校園づくり		
				15	特色ある学校園づくり		
				16	学校・家庭・地域の連携推進		
		5	青少年の健全育成活動の推進	17	青少年健全育成活動の推進		
				18	教育相談体制の充実		
				19	青少年活動の活性化		
				20	青少年健全育成社会の創造		
		6	学校園施設の整備と充実	21	学校園施設の整備と充実		
				22	学校図書室の環境整備		
				23	I C T教育環境の整備		
				24	校務支援ソフトの導入検討		
2	7	生涯学習環境の充実	25	生涯学習情報ネットワークの充実			
			26	生涯学習情報データベース化とコミセン等との連携			
	8	生涯学習施設の整備と充実	27	生涯学習施設の整備・充実			
			28	学校園施設の有効活用			
			29	図書館機能の充実・強化			
	9	学習成果を社会で活かす活動の推進	30	地域教育力向上アクション3プランの推進			
			31	学習成果を社会で生かす仕組みの拡充			
			32	生涯学習を支える人材の育成			
			33	西脇高齢者大学の充実			
			34	公民館講座の取組			
3	10	文化・芸術活動の推進	35	文化・芸術活動の推進			
			36	文化施設の整備とネットワーク化の推進			
			37	文化活動情報の発信			
	11	地域スポーツ活動と交流の推進	38	文化・芸術活動ボランティアの育成と交流の推進			
			39	生涯スポーツの推進			
			40	スポーツ環境の充実			
12	文化財の保存と活用	41	文化財の保存				
		42	文化財の活用				
4	13	学習機会の充実による人権文化の創造	43	人権意識の高揚を図る学習機会の創造			
			44	人権教育・学習推進リーダーの育成			
			45	体験交流活動による人権感覚の高揚			
	14	学校園における人権教育の充実	46	各学校園における人権教育の充実			
			47	教職員に対する研修機会の充実			
	15	人権啓発活動の推進	48	人権教育啓発資料の作成・発行			
49			市民参加型啓発活動の充実				
5	男女がともに参画する社会の形成	16	男女共同参画社会の形成に向けた意識啓発 女性の社会参画の促進	50	学習機会の提供や啓発活動の推進		
				51	女性の社会参画の促進		
		17	男女共同参画社会の形成に向けた環境づくり	52	男女共同参画社会の形成に向けた環境整備		
53	子育てを支援する地域づくり						
6	17	子育てを支える環境づくり	子育てを支える環境づくり	54	子育てを支援する場づくり		
				18	就学前教育の充実	55	保護者・地域のニーズに基づく就学前教育の充実
						56	質の高い就学前教育の充実
				19	子育て学習支援と先輩ママの活躍	57	学びの連続性を踏まえた小学校との円滑な接続
	58	子育て学習センターの役割					
	59	自主的な活動の推進					
	60	先輩ママの活躍					

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【1】教育総務課①

(A) 28年度の重点課題

学校園の施設整備（耐震化の促進）  
 (1) 重春幼稚園の耐震補強等工事  
 (2) 西脇小学校校舎保存改修工事実施設計

(B) 現状及び展開方針

(1) 平成29年度からの幼稚園1園化に向け、平成27年度に重春幼稚園の耐震補強工事等の実施設計を行い、平成28年度に工事を実施。幼稚園、学校教育課等関連部署と連携し、認定こども園の動向を注視しながら効率的な施設整備を進める。  
 (2) 西脇小学校は、西脇小学校校舎基本計画検討委員会の答申を受け、保存改修を行うことに決定したため、平成27年度に基本計画・基本設計の策定、平成28年度に実施設計を行い、平成29～31年度にかけて改修工事等を行う予定である。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 耐震補強工事（非木造）	1-6-21						3
① 重春幼稚園の耐震補強等工事		耐震化率(幼稚園含む。)	94.4%	94.4%	100.0%	100.0%	
(2) 耐震補強工事（木造）	1-6-21						3
① 西脇小学校校舎保存改修工事実施設計		基本計画・基本設計の策定～実施設計	拡大検討委員会による答申	基本計画・基本設計の策定	実施設計の実施	実施設計の実施	

(D) 主な取組の成果

(1) 重春幼稚園の耐震補強等工事は、平成28年度中に全て完了した。  
 (2) 西脇小学校校舎保存改修工事実施設計を行った。また、平成27年度に神戸大学と行った技術的な検討・調査結果等について、市民に向けた報告会を計2回実施した。

(E) 今後の課題

(1) 平成28年度末で閉園となった他の7園について、今後の活用方針等を検討し決定する必要がある。  
 (2) 西脇小学校の改修については、平成28年度に実施設計を完了し、平成29年度分の国の補助金が採択され、工事に着手するが、平成30年度と平成31年度に実施する改修工事については、国の補助金等の支援を継続して要望していく必要がある。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【1】教育総務課②

(A) 28年度の重点課題

学校園の施設整備（環境改善等）  
 (1) 小中学校太陽光発電設備設置工事  
 (2) 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計  
 (3) ICT環境整備  
 (4) 教材備品の整備・充実  
 (5) 学校園図書の整備・充実

(B) 現状及び展開方針

(1) 太陽光発電設備の未設置の学校（桜丘小学校、黒田庄中学校）について、設置工事を実施する。  
 (2) 経年劣化による老朽化が進んでいる西脇中学校屋内運動場について、平成28年度に実施設計、平成29年度に大規模改造工事を予定している。  
 (3) 耐用年限が経過し、更新時期がきたパソコン等の機器の入替えを行うとともに、学校ごとにサーバー管理を行っていることによるセキュリティ上等の問題解決のためクラウド方式のセンターサーバーを整備し、ネットワークの更新を行う。  
 (4) 子どもたちが学習するうえで必要な教材備品については、学校園と調整しながら学習に支障を来たさぬよう計画的に整備していく。  
 (5) 学校園図書については、古くなった図書の処分も含め、達成率を考慮しながら学校園と調整し、計画的な購入を実施していく。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 施設整備（環境改善等）	1-6-21						
① 小中学校太陽光発電設備設置工事		設計・工事	—	国に要望	設計・工事	設計・工事	3
② 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計		実施設計	—	—	実施設計	実施設計	
(2) ICT環境整備	1-6-23						
① パソコン機器更新（校務用と中学校の教育用）		更新状況	継続	継続	更新	更新	3
② ネットワーク更新（クラウド方式）		更新状況	—	—	更新	更新	
(3) 教材備品の整備	1-6-21						
① 学校教材備品	小学校	購入額	3,187千円	3,174千円	3,200千円	3,170千円	3
	中学校	購入額	1,895千円	1,890千円	1,900千円	1,881千円	
② 理科教育等設備備品購入	小学校	現有率	60.1%	61.7%	62.0%	62.3%	3
	中学校	現有率	40.0%	41.3%	42.0%	40.3%	
(4) 学校園図書の整備	1-6-22						
① 図書の購入	小学校	購入冊数	1,102冊	1,342冊	1,400冊	1,472冊	3
(国の定める学校図書標準を目標とし、図書の充実整備を図る。)	中学校	達成率	105.1%	99.8%	103.0%	103.5%	
	中学校	購入冊数	1,047冊	1,200冊	1,400冊	1,405冊	
		達成率	90.5%	93.0%	97.0%	97.8%	

(D) 主な取組の成果

(1) 市内全ての小中学校の太陽光発電設備設置工事が完了し、地球温暖化対策への貢献、電気代の削減、環境教育及び災害時の非常用電源に活用（西脇小学校を除く。）  
 (2) 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計を完了した。  
 (3) 小中学校の校務用パソコン及び中学校教育用パソコンの更新を実施。サーバーをクラウド方式にすることにより、データの保全性確保、管理面の効率化、情報標準化と相互利用・共有による業務の効率化、データバックアップ作業等に係る教職員の負担軽減、セキュリティ面向上、故障時における専門業者の遠隔対応による即時復旧体制等が再構築できた。さらに、学校教育課と連携し、業務の効率化に向けた校務支援システムの導入も同時に行った。  
 (4) 教材備品については、各学校からの要望を確認しながら計画的な購入及び破損した備品の廃棄を進め、更新を図った。  
 (5) 学校園図書については、計画的に購入を図るとともに、古くなった図書の廃棄を進め、更新を図った。

(E) 今後の課題

(1) 未設置の西脇小学校は、平成29年度から始まる保存改修工事に伴い、平成31年度に太陽光発電設備を設置する予定である。  
 (2) 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計は完了したが、国の補助金等の財源の確保ができないため保留とする。  
 (3) 平成28年度に実施していない小学校教育用パソコンの更新を実施し、教育の情報化を推進する。  
 また、今後は、国の教育振興基本計画に基づき、普通教室・特別教室でのICT活用ができるように必要な機器の整備等を計画的に進めていく必要がある。  
 (4) 子どもたちが学習するうえで必要な教材備品については、学校園と調整しながら学習に支障を来たさぬよう計画的な整備を継続していく。  
 (5) 学校園図書については、古くなった図書の廃棄も含め、達成率を考慮しながら学校園と調整し、計画的な更新を継続していく。



平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【2】学校給食センター②

(A) 28年度の重点課題
安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供 (1) 安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供 (2) 食育指導の推進 (3) 地産地消の推進

(B) 現状及び展開方針
(1) 職員等の衛生管理に対する意識向上を図り、食中毒等の事故を起こさないよう、安全で栄養バランスのとれた献立により給食を提供する。 (2) 栄養教諭による食育指導の目標実施回数は年90回程度を予定している。 (3) 月例の「野菜生産者グループ」会議において、計画的に献立と地場産野菜の納入調整を図り、地産地消を推進する。また、農林振興課と連携を図り、地場産野菜の使用率を高める。

(C) 取組の状況							
事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供	1-2-7						3
① 学校給食の実施食数		食数	682,576食	655,127食	689,359食	640,353食	
② 食中毒の事故		件数	0回	0回	0回	0回	
③ エネルギー充足率(中学生)		充足率	-	102%	100%	100%	
(2) 食育指導の推進	1-2-7						3
① 栄養教諭等による食育指導(出前授業)の実施		出前授業	89回	83回	90回	92回	
		学校給食残菜率	6.7%	6.0%	4.0%	5.7%	
(3) 地産地消の推進	1-2-7						2
① 給食における地場産農作物の使用割合の向上		地元野菜の使用率(市内産)	21.1%	17.7%	25.0%	17.2%	

(D) 主な取組の成果
(1) 児童・生徒においしくて安全で栄養バランスのとれた給食が提供できた。また、食中毒等の事故もなく給食を実施できた。 (2) 栄養教諭が学校に出向き、子どもたちに食育指導(出前講座)を実施した。これらを通じ、子どもたちに食の重要性を認識させることに寄与できた。残菜率については、学校でも給食を残さない取組を行っているところもあり、数値的にも若干改善した。 (3) 地産地消の推進については、地場産野菜の使用率向上に努めており、農林振興課との連携で「野菜生産者グループ」の登録生産者は増加した。しかし、通年での納入者は少なく、平成28年度は特に天候不順に見舞われ必要量の確保ができなかった。

(E) 今後の課題
(1) 衛生管理に関する職員の意識を徹底し、食中毒等の事故を起こさず安全で栄養バランスのとれた、おいしい給食が提供できるように努める。 (2) 平成23年度から実施している「食育推進行動計画」に基づき、学校園とも連携し食育の推進に係る啓発、地産地消の更なる推進を図る。 (3) 「野菜生産者グループ」については、生産者の確保とともに生産意向調査を行い、生産者と連携し旬の食材を使用したメニューを増やすなどして地場産野菜の使用率を高める。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【3】学校教育課①

(A) 28年度の重点課題

基礎・基本教育・学力向上方策の充実  
 (1) 生活、学習基盤確立への啓発・周知  
 (2) 学力調査(国)の実施・検証・活用  
 (3) にしわき学力向上事業の推進 (4) 放課後等の学習支援員の配置  
 (5) 学習指導の工夫・改善 (6) 授業力向上に係る研修・部会の充実

(B) 現状及び展開方針

(1) にしわき CHALLENGEプランにおいて、生活・学習基盤確立に向けた幼小中連携について啓発を行う。  
 (2) 平成28年度は小6年・中3年を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施し、市教委による採点を行うとともに、小3～5年、中1・2年を対象に市内統一学力調査を実施し、強みと弱みを早期に掴むことで授業方法の工夫改善につなげる。  
 (3) にしわき学力向上事業として、授業力向上に係る研修会・学力向上推進部会による学習指導の工夫・改善を実施する。  
 (4) 児童・生徒の基礎・基本の学力を定着するために、放課後等の学習支援員を配置する。  
 問題データベースを利用した基礎・基本の定着と個に応じた応用力の向上を図る。  
 (5) 少人数指導等、個に応じた学習指導の工夫・改善を図る。  
 (6) 学力向上推進部会・若手教員対象のスキルアップ研修会等、授業力向上に係る研修・部会の充実を図る。  
 学力向上スーパーティーチャーを派遣し、若手教員の授業力、指導力向上に努める。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 全国学力・学習状況調査	1-1-1						3
① 設定通過率を超えた正答数の割合		小学校	50%	54%	60%	72%	
		中学校	90%	94%	95%	86%	
② 授業の内容の理解度(とてもよくわかる)生活質問紙		小学校	38%	35%	50%	37%	
		中学校	34%	30%	40%	24%	
(2) にしわき学力向上事業の推進	1-1-1						3
① 講演会の開催		開催回数	2回	2回	2回	2回	
		満足度	71%	99%	90%	86%	
② 放課後等の学習支援員の配置		配置校数	10校	12校	12校	12校	
		配置人数	27人	50人	40人	35人	

(D) 主な取組の成果

基礎・基本の定着と学力向上に向けた施策についての検証・改善を行った。  
 (1) 読書力の向上、家庭学習の充実等、中学校区毎に特色のある連携を実施した。  
 (2) 全国学力・学習状況調査の実施と市教委採点、市内統一学力調査の実施と授業の工夫改善に努めた。  
 (3) にしわき学力向上事業の推進  
 ① 学力向上推進部会を開催(6回)し、指導力向上等について検証して、授業力の改善に生かした。  
 ② 教職員、保護者を対象に教育講演会(2回)を開催した。  
 ③ 問題データベースによる基礎・基本の定着、個に応じた応用力の向上に努めた。  
 ④ 学力向上スーパーティーチャーを派遣し、若手教員の授業力、資質向上を目指した。  
 (4) 退職教員や学生ボランティアによる放課後等の学習支援員を配置し、基礎・基本の学力の定着を図った。  
 (5) 新学習システムの効果的な活用による学習指導の工夫・改善(少人数指導)  
 (6) 学力向上推進部会による授業力向上に係る協議(6回)、若手教員を対象としたスキルアップ研修会の開催(2回)

(E) 今後の課題

基礎・基本の定着と学力向上に向けた、教職員の指導力向上のための具体的な方策の検証と実践  
 (1) 就学前教育との連携の充実  
 (2) 全国学力・学習状況調査の自校採点による早い時期からの指導方法の工夫と改善  
 ① 兵庫教育大学と連携した学力向上推進部会による具体的な指導力向上のための方策の検討  
 ② 教科担当者会等との連携による西脇市としての取組の検討  
 ③ 市内統一学力調査(小3～5年生、中1・2年生)  
 (3) にしわき学力向上事業の拡充  
 ① 学力向上推進部会の開催と検証  
 ② 放課後等の学習支援員による基礎・基本の学力の定着と繰り返し学習や授業内容の可視化による基礎・基本の学力の定着  
 ③ 英語教育の充実と学級満足度アンケートによる学級づくり  
 (4) 放課後等の学習支援員の資質向上・安定的な人材確保  
 (5) 学力向上につながる学習指導の工夫・改善の可視化  
 (6) 教科担当者会等との連携による授業力向上に係る研修の充実



平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【4】生涯学習課①

(A) 28年度の重点課題

生涯学習環境の充実  
 (1) 生涯学習情報のネットワークの構築  
 (2) 生涯学習人材情報データベースの充実  
 (3) 学習成果を社会で生かす仕組みの充実

(B) 現状及び展開方針

(1) 「いつでも、どこでも、だれでも」生涯学習に取り組むことができるよう、文化、芸術、教養、スポーツなどの社会教育・生涯学習の機会を拡充するとともに、教育機関、各種の施設や多彩な人材とも連携しながら、生涯学習情報・活動ネットワークを構築し、新たな学習機会の創出に努める。  
 (2) 文化・芸術団体をはじめ、社会教育等に関連する市民団体や地域の人材、各種講座やイベント、市民が利用できる各種施設、文化資源など、生涯学習に関するあらゆる情報のデータベース化を推進するとともに、ホームページなど様々な方法で市民へ情報を提供する環境の整備を図る。  
 (3) 学習する人と活動できる場を結びつける仕組みを拡充し、学習の成果を地域でのまちづくり活動に生かす機会を充実するとともに、学びと実践の一体化の視点に立った自主的な活動の支援を行う。また、生涯学習の成果を発表する機会の拡充を図り、こうした機会を通じて市民や活動団体の交流を促進する。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
学校支援本部ボランティア	2-9-32						3
		登録者数	101人	115人	130人	116人	
						死亡による登録削除6人 削除前122人	
生涯学習アニメーター人材登録バンク	2-9-32						3
		登録者数	0人	10人	25人	個人27人	
						団体5団体	

(D) 主な取組の成果

(1) 生涯学習に関連するイベント・事業への市民の参加者増を図り、また生涯学習に取り組む機会を拡充するため、ホームページ、広報紙、日刊紙等あらゆる媒体を積極的に活用するとともに、文化・スポーツ等生涯学習に関連するイベント等の機会を捉え、チラシ等を用い互いの事業PRを積極的に行ったことにより、前年度と比較し全体的に入場者・参加者増につながった。  
 (2) 市及び文化・スポーツ団体等が主催する個々のイベント・教室等、生涯学習に関する情報をいち早くデータベース化し、ホームページ、広報紙、日刊紙等の媒体を通じて提供するとともに、防災行政無線を利用し、市民に対しタイムリーに情報を提供することにより周知拡大につながった。  
 (3) 市民に対し、学校支援本部ボランティアへの人材登録を促すために、全戸に募集チラシを配布し、周知を図ったことにより、潜在的な登録者の把握につながっている。また、アニメーター人材登録バンクについては、登録者の人材の掘り起こしを進めるため、文化及びスポーツ団体、各種教室の指導者等に制度の仕組みについて広報、また文化・スポーツ等の関係会議において説明会を行うなど周知を図り、目標値に相当する登録者を得ることができた。

(E) 今後の課題

(1) 文化、スポーツ、教養等あらゆる生涯学習情報及び人材のネットワーク化を進めるために、市内の社会教育・生涯学習関連団体や個人の活動内容の把握・情報収集に引き続き取り組み、データ収集を基に、より情報の見える化を推進する必要がある。  
 (2) これまでに収集した生涯学習に関する情報データベースを活用し、市ホームページや広報紙、防災行政無線放送などを媒体として生涯学習に係る情報や技術を必要とする市民とのマッチングを行えるよう環境を整える必要がある。  
 (3) 学校支援本部ボランティアについては、継続した事業の周知をするため積極的なPRに加え、小中学校との連携を深め、制度の活用を促し、登録ボランティアの活動機会の拡張が必要である。また、アニメーター人材登録バンクについては、運用を開始し、市民の学習・活動ニーズに合った人材の派遣を行えるよう適切なマッチングシステムを確立する必要がある。



平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【4】生涯学習課②

(A) 28年度の重点課題

生涯スポーツの推進及びスポーツ環境の充実  
 (1) 生涯スポーツの推進  
 (2) 障害者スポーツの推進

(B) 現状及び展開方針

(1) 市民が日常的にスポーツに親しむ中で、健康で明るく活力に満ちた市民生活を送れるよう、機会の創出や施設の充実に取り組む。  
**【スポーツ教室やイベントの充実】**  
 現状：少子高齢化や類似イベントが近隣市町で開催されることに伴い、参加者が減少している。また、マンネリ化している。  
 展開：情報収集により変化及び多様化するニーズに対応したスポーツ教室及びイベントを計画する。  
 (2) スポーツ基本法に基づき、障害等を問わず、広く市民が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備する。  
**【障害者スポーツ指導員の育成】**  
 現状：競技としての障害者スポーツの推進は市単位でのニーズが少なく、県単位で取り扱われている。また、楽しむための障害者スポーツの推進についても積極的に行われてこなかった。  
 展開：障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境を整備するために、指導者の育成や障害者支援所等の取組への協力を行う。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) スポーツ教室・イベントの充実	3-11-39、3-11-40						
① スポーツ教室 (ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バドミントン陸上競技、少林寺拳法、硬式テニス、剣道、ジュニアサッカー) 計9教室		参加者数	419人	416人	450人	293人	2
② 西脇子午線マラソン大会		参加者数	2,789人	2,817人	3,000人	2,516人	
③ 市民体育大会の開催		参加者数	3,425人	3,103人	3,400人	2,902人	
④ その他のイベント (市民ハイキング、歩行テスト、ポールウォーキングの実施) (東播磨地区高校駅伝競、西脇多可新人高校駅伝大会への協力)							
(2) 障害者スポーツ指導員の育成							
① 障害者スポーツ指導員資格の取得		取得者数	- 人	- 人	2 人	0 人	2
② 障害者スポーツに関する行事への協力		協力件数	- 件	- 件	2 件	1 件	

(D) 主な取組の成果

(1) スポーツ教室やイベントの充実  
 スポーツ教室やマラソン大会の参加者は前年度対比で減となったものの、参加者ニーズの情報収集とともに、指導者や協力者の意向についても現状把握できた。  
 (2) 障害者スポーツ指導員の育成  
 西脇市スポーツ推進委員会に障害者スポーツ指導員の資格取得を打診したところ、検討いただき了承を得たが、資格取得に必要な研修会等の日程が合わず、平成29年度に持ち越しとなっている。しかしながら、市内の障害者支援所が開催する運動会等へ協力者として参加し、各種目の補助を行いながら、スポーツの楽しさを伝えることができた。

(E) 今後の課題

(1) スポーツ教室やイベントの充実  
 教室やマラソン大会の開催目的を再考するとともに、参加者のニーズに基づき、改編する必要がある。  
 (2) 障害者スポーツ指導員の育成  
 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、社会的な需要はますます高まることが予想される。有資格指導員数を増やしていくとともに、障害者が日常的にスポーツに親しむ中で、健康で明るく活力に満ちた市民生活を送れるよう、機会の創出や施設の充実に取り組む。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【5】人権教育室①

(A) 28年度の重点課題

研修会・講演会の充実  
 (1) 市民の人権意識の高揚  
 (2) 効果的な講演会・研修会の開催  
 (3) 人権教育推進員の連携体制強化  
 (4) 学校における人権教育年間指導計画の改訂

(B) 現状及び展開方針

(1) 市民の人権意識高揚につながるよう、人権課題に応じた研修の開催と、市民アンケート等を活用した運営をする。  
 (2) 参加者の固定化等の課題解決を図るため、座学による研修だけでなく体験活動、参加体験型を効果的に取り入れた研修を実施する。  
 (3) 人権教育推進委員の能力を活用し、各地区の人権教育推進員の活動を支援するとともに、各地区人権教育協議会の研修を実施する。  
 (4) 学校における人権教育を計画的に実行していくために、小学校に続いて中学校においても年間指導計画の改訂に取り組む。また、人権教育担当者会の充実を図り、市内における授業研究会を実施する。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 人権教育推進啓発事業	4-13-43						4
① 8月間講演会の実施		参加者数	1,223人	1,299人	1,300人	1,313人	
② 講演会のアンケートでの満足度		割合	96.3%	92.2%	95.0%	97.5%	
(2) 人権教育推進啓発事業・人権学習事業	4-13-45						3
① 研究大会の開催		参加者数	434人	453人	450人	470人	
② 市外研修(フィールドワーク)の実施		実施回数	7回	7回	8回	7回	
③ にしわきっ子じんけん教室の実施		参加者数	25人	20人	20人	21人	
(3) 人権教育推進委員・推進員設置事業	4-13-44						3
① 指導者講座・人権教育推進委員合同研修会の開催		開催回数	4回	4回	4回	4回	
		参加者数	341人	314人	400人	320人	
② 人権教育推進委員定例研修会の開催		開催回数	8回	8回	8回	8回	
(4) 人権教育推進啓発活動事業	4-14-46						3
① 教職員人権教育研修会の実施		参加者数	140人	136人	140人	123人	
② 人権担当者会の実施		開催回数	5回	7回	5回	6回	
③ 人権教育に関する公開授業の実施		実施回数	1回	2回	2回	2回	

(D) 主な取組の成果

(1) 月間講演会を含めた研修会について90%を超える参加者から満足(おおむね満足を含む。)との回答を得ている。  
 (2) 市外研修による現地でのフィールドワークの実施、小中学生による体験活動を取り入れた人権学習を実施した。  
 (3) 人権教育推進委員による効果的な研修会プログラムの作成とファシリテーターとしての資質向上につながる研修会を実施した。  
 (4) 小中学校における年間指導計画の改訂を終え、小中学校で各1回(合計2回)公開授業を実施した。

(E) 今後の課題

(1) 市民参画による人権教育をすすめるため、研修内容等の計画において意見を取り入れるとともに、アンケート結果を生かした研修会を実施する。  
 (2) 研究大会の分科会の活性化、体験活動を取り入れた有効な人権教育の推進を行う。  
 (3) 参加者からの活発な発言を引き出せるような研修会の運営に努める。  
 (4) 学校における人権教育の推進と若手教員への指導方法等の伝承を行う。  
 (5) 人権関連3法(H28年度施行)をふまえた人権研修・啓発を実施する。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【5】人権教育室②

(A) 27年度の重点課題

人権教育・啓発の充実  
 (1) 生活と関連付けた人権教育を捉える機会の提供  
 (2) 人権教育推進委員・推進員が主体的に実施する住民学習の推進  
 (3) 市民に対する広報・啓発活動の充実

(B) 現状及び展開方針

(1) 人権教育協議会の活動を推進するとともに関係機関と連携する。  
 (2) 人権教育推進委員・推進員による町別学習会の計画・運営には時間がかかり、事務局主体となって運営されるケースが多い。  
 (3) 市民アンケートの「全ての人の人権が守られているか」という設問に対する回答は、41.2%が「そう思う」という回答であり、人権課題が多岐にわたる中で啓発方法・機会を工夫し、さらにこの数値があがるように取組を進める。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 人権教育推進啓発活動事業	4-15-49						3
① 人権セミナーの実施		参加者数	142人	116人	120人	204人	
② 人権擁護委員と連携した啓発活動		回数	11回	9回	10回	9回	
(2) 人権教育推進啓発活動事業	4-15-49						3
① 町別学習会、交流会等の住民学習会の実施		参加者数	2,372人	2,124人	2,100人	2,036人	
② 各地区定例研修会の実施		実施回数	39回	40回	40回	40回	
(3) 人権教育推進啓発活動事業	4-15-48						3
① 人権啓発資料「ゆきちゃんからのメッセージ」等の発行		発行回数	10回	15回	10回	15回	

(D) 主な取組の成果

(1) 人権作文や人権週間の街頭運動など、関係機関と連携した行事の実施ができた。  
 (2) 子ども会や町の行事と関連付け、学習会を実施できた。  
 (3) 人権啓発資料「ゆきちゃんからのメッセージ」の全戸配布を継続し、今後の学習に活用することで人権意識の醸成に役立たせることができた。

(E) 今後の課題

(1) 関係課及び関係機関との連携を図り、市民の人権意識を高める取組を推進する。  
 (2) 参加者の固定化、高齢化に対する対応策を考える必要がある。  
 (3) 啓発資料等の発行回数やホームページでの公開を含め、市民が人権にふれる機会を増やす。  
 (4) 人権関連三法の啓発を図るための資料を作成する。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【6】中央公民館①

(A) 28年度の重点課題

公民館講座の充実  
 (1) 市民学習ニーズに合う学習機会を講座や教室で提供する。  
 (2) 公民館で運営実施した教養講座の、市民グループが運営実施する自主運営グループへの移行  
 (3) 生涯学習まちづくりの推進を支える公民館講座の活性化

(B) 現状及び展開方針

(1) 生涯学習の様々な講座を、公民館運営講座、市民自主運営講座、高齢者大学講座に区分し、分野ごとに市民ニーズに合う学習機会を提供することを目的としている。現状は、公民館運営講座が15講座、自主運営講座が13講座である。  
 (2) 市民自ら教え学ぶ場としての自主運営グループを育成しているが、昨年度と比較して量的には増減なしであった。質的には教室内のアンケート実施や要望書の受付などで学習内容を充実させているが、量的な展開が低調であるのは否めない。自主運営グループ間の連絡会の開催をさらに強化推進する必要がある。  
 (3) 各種公民館運営講座を開催することにより、各自の知的・文化的・健康水準等の向上を図ったが、生涯学習の基本となる生きがいづくりにおいて、伸び悩んでいるのが現状である。市民の学習意欲の高揚、さらに公民館講座を通じた市民交流の広がりを図るためにも新規講座の開設や閉鎖講座の検討も必要である。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 公民館運営講座【講座事業】	2-9-34						3
① パソコン(ワード前期・後期、エクセル)		受講者数	13人	23人	30人	27人	
② 音楽体験教室		〃	14人	14人	15人	9人	
③ 子ども絵画教室(前期、後期)		〃	58人	60人	60人	60人	
④ 子ども手芸教室		〃	21人	33人	30人	43人	
⑤ ヨーガ教室		〃	-	-	15人	16人	
⑥ その他講座(野外活動、歴史ハイク、自然観察等)		回数	4回	4回	4回	4回	
(2) 公民館自主運営講座【講座事業】	2-9-34						2
① 公民館自主運営講座		講座数	16	13	14	13	

(D) 主な取組の成果

(1) 公民館運営講座参加者への聞き取りなどで、市民ニーズを把握し、学習機会を多く提供できる基盤づくりに着手できた。公民館運営講座では新規にヨガ教室を前期・後期に分け通年開催とし、参加者数は予想よりも多く運営講座として位置付けすることができた。  
 (2) 総合市民センターを利用する自主運営グループは、昨年度と同数の13グループとなっているが、自主運営グループ間の連携を強化するなど、次年度に向けて新規自主講座の開設準備ができた。  
 (3) 自然観察では昨年度の年1回から年2回(夏季・冬季)の開催へ移行でき、参加者増につながった。

(E) 今後の課題

(1) 市民向けアンケートなどを実施するほか、他市の成功事例を把握するなどし、より市民のニーズに応えることのできる学習機会を提供していくよう努める。また、年代層別や男女別の希望や要望も分析し、新規講座の開設や既存講座の内容への反映を検討する。  
 (2) 自主運営グループ等の育成と活性化を図るべく、各グループが抱える課題や方向性を探究し、市民が受講したい講座の増設を図っていく。  
 (3) 講座生が習得した成果を地域のまちづくり活動にも生かせるよう、最近の市民生活に顕在する課題に対応する講座の開設を検討していく。



平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【7】 青少年センター①

(A) 28年度の重点課題

「心のケア」の充実  
 (1) いじめ・不登校・問題行動の早期発見と早期対応、未然防止  
 (2) 生徒指導研修会、不登校問題等研修会の改善・工夫による教職員の指導力の向上  
 (3) 教育相談の充実、適応指導教室における個にあった支援（進路支援を含む。）の充実  
 (4) 福祉部局・関係機関との連携の強化

(B) 現状及び展開方針

(1) 問題行動や長期休業明け等における児童生徒の欠席状況について学校との連絡を密にし連携した対応を行う。校種間（小学校・中学校・高等学校）の連携を強化するために、生徒指導担当者等の見直しも行う。  
 (2) 夏期生徒指導研修会、不登校問題等研修会の内容の改善を図る。  
 (3) 教育相談内容の記録方法を工夫し、相談内容への対応に係る学校との連携に努める。適応指導教室については学校との連携を強化し個々の生徒の進路支援も充実させる。  
 (4) スクールソーシャルワーカーの配置により、市や県の福祉部局との連携を深め、個に応じた支援を迅速に行う。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 生徒理解促進事業	1-5-18						3
① 生徒指導研修会・中学校区生徒指導研修会		開催回数	12回	13回	12回	17回	
② 不登校問題等研修会		開催回数	2回	2回	2回	2回	
(2) 教育相談事業	1-5-18						2
① 面接相談		相談件数	402件	351件	380件	283件	
② 電話相談		相談件数	150件	116件	120件	186件	
(3) 教育カウンセリング事業	1-5-18						2
① 不登校児童生徒	小学校	出現率	0.46%	0.42%	0.38%	0.68%	
	中学校	出現率	3.60%	3.98%	3.30%	3.46%	
② 適応指導教室		在籍者数	11人	15人	15人	16人	
③ スクールカウンセラー		相談件数	1,815人	1,686人	1,800人	1,753人	

(D) 主な取組の成果

(1) 研修の充実  
 ① いじめ・不登校・問題行動の未然防止に焦点をあて、学級経営・部活動経営をテーマに教職員研修を実施し、好評を得た。また、児童生徒の自殺予防をテーマとした教職員研修も初めて実施した。  
 ② 中学校区青少年健全育成活動においては、その会議の開催時期や回数について見直しを行い、活発な議論が行えた。研修やキャンペーンとして、県教育委員会スクールカウンセラースーパーバイザーを招へいし、カウンセリングマインド研修を実施する中学校区や、下校時の声かけ運動（「おかえり運動」）を新たに企画・実施する中学校区などもあり、各中学校区がその特色を生かした独自の取組が実施できた。  
 (2) 教育相談の充実による児童生徒・保護者の心のケアの取組  
 ① スクールカウンセラーの効果的な活用に向けて、スクールカウンセラーによる情報交換会を初めて実施した（年2回）。  
 ② 適応指導教室での指導について学校との連携を密にし、子どもたちの将来を見据えた取組を行い進路支援にも力を入れ、通級する中学校3年生全員が進学した。また通級生16人中6人が学校復帰を果たした。  
 ③ 中学校における不登校生徒出現率は、前年度3.98%から3.46%に減少した。  
 (3) いじめ問題への対応  
 ① 早期発見・早期対応のための「児童生徒アンケート」について生徒指導担当者会で協議を行い、学期に1度の実施を行った。  
 ② 中学校区青少年健全育成会議においていじめ問題を議題とし、積極的な認知と組織的な対応の必要性について共通理解を図った。  
 (4) 9月からスクールソーシャルワーカーを2中学校区に配置し、福祉部局との連携が迅速かつ密になった。家庭への支援により、不登校生徒が登校をはじめた事案が生まれるなど成果があった。

(E) 今後の課題

(1) いじめ・不登校・問題行動の未然防止に向けた研修の充実  
 ① いじめ・不登校・問題行動の未然防止を図るために、児童生徒同士をつなぎ自己有用感を高めるための学級経営や部活動経営、学習指導、児童生徒会活動のあり方等についての教職員研修の充実を図る。  
 ② 不登校問題について、不登校担当者を校務分掌に位置付け、各学校がチームとして対応できるための組織づくりへの支援を行う。  
 ③ 福祉部局・警察・県の関係機関・関係団体等との連携を深め、早期対応を図る。  
 (2) 教育相談、適応指導教室の充実  
 各学校の教育相談室の整備をはじめ、スクールカウンセラーの効果的な活用に向けた取組を引き続き行う。青少年センターでの教育相談や適応指導教室の運営において、学校との連絡を密にし、関係機関とも連携した支援を図る。教育相談事業についての広報活動を工夫する。  
 (3) いじめ問題への対応  
 人権教育室との連携により、いじめの未然防止に向けた計画的・系統的な学習の充実を図る。  
 (4) スクールソーシャルワーカーの配置  
 拡充を図るとともに、その効果的な配置に向けて、スクールソーシャルワーカーの人材確保や効果的な活用に向けた学校との連携を深めていく。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【7】青少年センター②

(A) 28年度の重点課題

- 青少年健全育成活動の充実  
 (1) 「地域の子は地域で守り育てる」ための市民意識の向上  
 (2) 青少年健全育成事業の見直しと活性化  
 (3) 西脇ハーティネス・メンバーズ「子ども見守りチーム」の拡充

(B) 現状及び展開方針

- (1) 中学校区青少年健全育成会議や子ども会活動の組織・体制の見直しを図る。  
 (2) 体験活動事業や成人式・立春式等の事業の見直しを行い、青少年が地域とつながっていることを実感し、地域に貢献しようとする意識を高める。  
 (3) 見守り活動について、活動者の拡充を目指し、新聞報道等による活動の啓発、自治会へも協力要請を図り、活動グループと学校との連携も強化する。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 青少年健全育成活動	1-5-17						3
① 西脇ハーティネス・メンバーズ運動		登録人数	875人	888人	880人	898人	
② 青少年健全育成地区大会		開催回数	12回	12回	12回	14回	
③ 青少年健全育成キャンペーン		開催回数	9回	10回	9回	10回	
(2) 活性化・体験学習事業	1-5-19						3
① ガキ大将教室等		受講者数	52人	53人	52人	55人	
② 団体育成(子ども会)		子ども会数	65団体	65団体	65団体	63団体	
(3) 青少年教育施設の充実	1-5-20						2
① 青年の家		利用人数	15,307人	16,526人	16,000人	15,432人	
② キャンプ場(木谷山、県民広場、奥山、武嶋)		利用人数	1,799人	2,127人	2,200人	2,301人	
(4) 非行防止・安全対策	1-5-17、1-5-20						3
① 街頭補導・環境浄化活動		実施回数	236回	306回	320回	382回	
② 西脇ハーティネス・メンバーズ「子ども見守りチーム」		登録人数	248人	257人	260人	271人	
③ 市内外の関係団体との連携活動		実施回数	39回	42回	39回	39回	

(D) 主な取組の成果

- (1) 西脇市教育振興基本計画「え〜まち西脇!!e-プラン」との連動  
 ① 1年を通して、「子ども見守りチーム」による登下校時の見守り活動を実施した。また小学生の下校時間に青少年補導委員会女性班による青パトの巡回を行った。登下校時においても青少年センターによる青パトの巡回(登校時年間122回、下校時年間154回)を行った。  
 ② 子どもたちによる地域貢献活動「ソーシャルボンド・マイプラン」「ソーシャルボンド・キッズプラン」が定着し、自分で考えた地域貢献活動ができています。生徒デザインによる顕彰バッジを作製し配布した。  
 ③ インターネットの安全利用にかかるキャンペーンを小中学校卒業式等において年間3回実施し啓発に努めた。小学校4年生から中学校3年生の児童生徒及びその保護者を対象とするアンケートも実施し、その結果について西脇市青少年問題協議会において議論し提言をまとめ、中学校区青少年健全育成会議や西脇市子ども会指導者連絡協議会等において協議を行った。  
 (2) 団体育成等  
 ① 西脇市子ども会指導者連絡協議会の役員による「なわとび大会」を本年度も開催し、児童生徒74人の参加を得て(昨年度61人)盛況のうちに終了しよき交流が行えた。オセロ大会も開催し145人の児童生徒が参加、大盛況のうちに実施できた(平成26年度参加者72人、平成27年度参加者100人)。これら行事の企画・運営を通して、役員間で「子ども会活動の在り方」そのものへの議論も深まり、大変意義ある取組ができた。  
 ② 成人式において、社会貢献活動をはじめ実施した。老人保健施設への手作りの門松の贈呈と市の図書館への児童書の贈呈を行った。新聞報道も何度か行われ、全国の成人式を顕彰するコンクールにおいて「話題賞」を受賞した。  
 (3) 青少年教育施設の充実  
 ① 青年の家の屋根改修工事も実施し、平素からのきめ細かな施設管理により、リピーターの利用者も多く好評を得ている。  
 ② キャンプ場についても、施設の安全管理と快適な空間づくりに努め、利用者も増加している。

(E) 今後の課題

- (1) 青少年健全育成の推進  
 インターネットの安全利用にかかるパトロールや啓発を引き続き推進する。  
 (2) 青少年健全育成活動の活性化  
 子ども会活動への保護者・地域の理解を深めるための啓発活動を推進し、各町及び各地区子ども会活動への一層の支援を図る。  
 (3) 地域での安全対策  
 学校からの迅速な情報提供を求め、警察等関係機関との連携も強化する。「子ども見守りチーム」の拡充を図る。

平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【8】生活文化総合センター

(A) 28年度の重点課題
(1) 資料館活動 (2) 小中学校との連携 (3) P R活動の強化

(B) 現状及び展開方針
(1) 図書館のみらいえ移転により、生活文化総合センターへ来る人の流れが変わり、郷土資料館の入館者数が大幅に減少している。企画・特別展、各種講座、ふるさと探訪ハイキング、研究紀要の発刊、常設・季節展示の充実等を行い、来館者の増加を図る。所管する緑風台古窯陶芸館について、休館日の見直しを行い、開館形態の方向付けをする。 (2) 市内の小中学校と連携し、資料館職員による出張授業や地域を学ぶ校外学習に郷土資料館の見学を取り入れて、郷土の歴史や文化財に対する児童の理解を深めるとともに来館者の増加を図る。 (3) 来館者の誘致を図るため、郷土資料館のP R活動として、体験教室の実施や市内・市外の館外イベントへの参加を促進する。

(C) 取組の状況							
事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 資料館活動	3-12-41, 3-12-42						2
① 郷土資料館の入館者		見学者等	4,908人	3,987人	5,000人	3,049人	
② 古窯陶芸館の入館者		見学者等	693人	719人	730人	529人	
(2) 小中学校との連携	2-9-30						3
① 小中学校からの見学		団体見学	10校	10校	—	13校	
(3) P R活動の強化	3-10-37						3
① 体験教室、イベントによるP R		実施回数	0回	4回	—	5回	

(D) 主な取組の成果
(1) 企画・特別展、体験教室、古文書講座、歴史講演会等の各種事業を展開し、資料館の集客を図ったが、来館者数は減少した。緑風台古窯陶芸館の休館日は、条例を改正し、火曜日に加えて、新たに水曜日を休館日にした。 (2) 小学校3年生の社会科カリキュラムと連動した内容の特別展「むかしの道具21」を開催し、市内外からの団体見学を誘致した。館外活動では、西脇小学校6年生を対象に出張授業を実施した。 (3) 夏休み期間の毎週日曜日に体験教室(勾玉消しゴム、播州織コースター)を実施した。館外活動では、ひょうごミュージアムフェア(神戸市)、みらいえ開館1周年イベント、地球科学館トライやる・ウィークイベント等に参加し、郷土資料館の周知啓発を行った。

(E) 今後の課題
(1) 体験教室等のワークショップの充実(種類や実施回数の増加) (2) 出張授業の充実及び啓発 (3) ホームページの充実



平成28年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 【9】図書館

(A) 28年度の重点課題

図書館資料の充実・図書館利用の拡大  
 (1) 図書館資料の充実  
 (2) 図書館利用の拡大

(B) 現状及び展開方針

(1) 平成27年度末で約16.2万冊の蔵書数となっているが、平成30年度に蔵書数20万冊を目標に計画的な図書の購入を行う。  
 (2) 図書館利用の拡大については、より多くの方に利用してもらうため、市内6か所にサービスポイントを設置し、利用者の利便性の向上を図る。  
 また、「おはなし会」や「えほんのじかん」、「読書会」等の定期開催や「図書館まつり」等のイベントを積極的に行い、図書館利用の増大を図る。  
 学校園を始めボランティア、近隣図書館等と連携し、図書館の利用拡大及び読書活動の推進を図る。

(C) 取組の状況

事業名	(教育振興基本計画・教育の指針における位置付け)	項目	26年度	27年度	28年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 図書館活動普及啓発事業	2-8-29						3
① 入館者数		年度人数	54,263人	142,108人	210,000人	200,741人	
② 貸出人数		年度人数	37,724人	58,730人	85,000人	80,076人	
③ 貸出冊数		年度冊数	190,658冊	269,641冊	400,000冊	355,353冊	
④ 登録者数		延べ人数	18,997人	23,980人	30,000人	24,593人	
⑤ 7歳～15歳の登録割合		登録割合	8.60%	12.37%	10.00%	12.19%	
⑥ 読書通帳登録数		延べ人数	0人	3,022人	4,000人	4,396人	
(2) 図書館用図書充実事業	2-8-29						3
① 図書館用図書の購入		年度冊数	17,485冊	9,206冊	11,000冊	11,414冊	
② 蔵書冊数		延べ冊数	159,193冊	162,821冊	177,875冊	175,962冊	

(D) 主な取組の成果

(1) 平成28年度より3年間、11,000冊を目途に図書の購入を行うこととし、1年目は、11,414冊を購入することができた。蔵書数を拡大することで、より利用者のニーズに即した図書の提供が可能である。  
 (2) 平成27年度より、各地区1か所ずつ、計6か所のサービスポイントを設置した。図書の貸出、返却が身近な場所で可能となり、利便性が向上したことで、図書貸出冊数が増となった要因の一つとなっている。  
 また、学校園への積極的な働きかけを行い、団体貸出の推進に努め、団体貸出冊数の大幅増となった(4,542冊 対前年度 2,510冊増)。  
 さらに、ボランティアグループの協力の下、「おはなし会」や「えほんのじかん」等の定期的な開催や「図書館まつり」等のイベントを通じて、子どもの図書館利用の拡大を図るとともに、平成29年1月には、こども福祉課と連携し、出生届出時と10か月乳児相談時に絵本のプレゼントを行うブックスタートを開始し、子どもの読書活動の推進を行った。  
 他館との連携については、北播磨広域定住自立圏共生ビジョンに基づき、図書の相互貸出利用を行い、利用者の利便性の向上に努めている。

(E) 今後の課題

(1) 図書資料の充実については、平成30年度蔵書数20万冊を目標に取り組んでいるところであり、引き続き予算要求を行っていきたい。  
 (2) 平成28年度、図書の貸出冊数が大幅な増となったが目標とする40万冊には達していない。引き続き図書の利用拡大を図るため、平成29年度は、図書の貸出制限冊数の増冊や、学校への団体貸出を業者委託し先生方の負担を減らすことで利便性の向上を図っていく取組を実施予定である。  
 読書通帳の登録数が目標値を上回った。今後も、図書館内やイベント等で積極的にPRを行い、更なる読書通帳の普及に努めたい。

# 学識経験者による意見

## 1 兵庫教育大学大学院 浅野良一教授による意見

### 1 課所別の事業点検評価の結果

	平成28年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
	<p>学校園の施設整備（耐震化の促進）</p> <p>(1) 重春幼稚園の耐震補強等工事</p> <p>(2) 西脇小学校校舎保存改修工事実施設計</p>	<p>重春幼稚園の耐震補強等工事については平成28年度の整備実施に向け、着実に実施設計を進め、平成28年度に全て完了しているため、自己評価の「3」は妥当であると判断する。</p> <p>西脇小学校校舎保存改修工事実施設計の実施については、神戸大学と共同で行った技術的な検討・調査結果を市民に対し報告することができている。実施設計が予定どおりに行われているため、自己評価の「3」は妥当であると判断するが、「(E)今後の課題」にも挙げられているように、設計どおりに事業を進めるに当たって、国の補助金等を確実に確保できる手立てを十分に用意しておく必要がある。</p>
1 教育 総務 課	<p>学校園の施設整備（環境改善等）</p> <p>(1) 小中学校太陽光発電設備設置工事</p> <p>(2) 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計</p> <p>(3) ICT環境整備</p> <p>(4) 教材備品の整備・充実</p> <p>(5) 学校園図書への整備・充実</p>	<p>小中学校太陽光発電設備設置工事については、改修予定の西脇小学校を除き、全ての小中学校において設置工事が完了している。</p> <p>西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計についても、財源の問題こそあれ、実施設計に関しては平成28年度中に完了していることから、自己評価の「3」は妥当であると判断する。西脇中学校屋内運動場大規模改修に関しては、財源の問題をどのようにクリアするかが、今後の事業の継続に大きな影響を与えると思われる。</p> <p>ICT環境の整備については、校務用パソコンの更新及びクラウド方式の導入が行われており、教職員の業務改善にも役立つというメリットが考えられるため、自己評価の「3」は「4」でもよいのではないかと考える。</p> <p>学校園図書への整備については、当初の目標値をクリアすることができているため、自己評価の「3」は妥当であると判断する。教材備品の整備についても当初の目標値に対して大きく乖離することなく計画的に整備が行われているため、自己評価の「3」は妥当であると判断する。</p>
2 学校 給食 センター	<p>給食センター運営についての検討</p> <p>(1) 調理業務の民間委託についての検討</p> <p>(2) 給食費滞納解消対策</p>	<p>調理業務の民間委託の検討については、様々な部分に考慮した上で結論を出さなければならない難しい問題ではあるが、一定の方向性を見出すために3年間を費やしている状況である。したがって、自己評価の「2」は妥当であると判断する。</p> <p>給食費未納解消対策については、継続的で地道な取組の成果もあり、目標値には届いてはいないものの、高い水準の収納率を維持しており、自己評価の「3」は妥当であると判断する。</p>

<p>2 学校給食センター</p>	<p>安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供  (1) 安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供  (2) 食育指導の推進  (3) 地産地消の推進</p>	<p>安全で栄養のバランスのとれた学校給食の提供については、学校給食の大前提である、食中毒の事故が起きなかったことにより、必要最低限の水準が確保されているため、自己評価の「3」は妥当であると判断する。  食育指導の推進については、学校給食残菜率が目標にはわずかに届かなかったものの、昨年度の数値よりは改善がされており、食育指導の回数を増やしたことが原因の一つと考えることができるため、自己評価の「3」は妥当であると判断する。  地産地消の推進に関しては、地場産野菜の安定的確保のためのシステム構築が急がれる。天候等の影響もあったが、目標値に大きく届いていないので、自己評価の「2」は妥当であると判断する。</p>
<p>3 学校教育課</p>	<p>基礎・基本教育・学力向上方策の充実  (1) 生活、学習基盤確立への啓発・周知  (2) 学力調査（国）の実施・検証・活用  (3) にしわき学力向上事業の推進  (4) 放課後等の学習支援員の配置  (5) 学習指導の工夫・改善  (6) 授業力向上に係る研修・部会の充実</p> <p>就学前教育の将来展望を踏まえた質の高い教育・保育の推進  (1) 子ども・子育て会議・専門部会による「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」策定に係る協議  (2) 保護者、市民、教職員への啓発・情報発信</p>	<p>全国学力・学習状況調査の結果では、小学校での健闘がめざましい。①設定通過率を超えた正答数の割合では27年度から18%増（26年度→27年度は4%増）、②授業内容の理解度については2%増（26年度→27年度は3%減）となっており、これまでの取組の成果が表れているといえる。ただ、中学校段階では①②ともに前年度より数値が下がっているため中学校での授業の工夫や改善が必要である。にしわき CHALLENGEプランでのさらなる幼小中連携を期待したい。  にしわき学力向上事業の推進において、①講演会の開催②放課後等の学習支援員の配置について目標値はクリアしているが、満足度や配置人数は27年度と比較して減少しているため自己評価「3」は妥当と判断できる。ただ、目標値をクリアすることは確かに大事ではあるが、「教職員や保護者のニーズに応えられる講演会であるか。」「基礎・基本の学力の定着を図ることができる学習支援員であるか。」といった質の向上へのこだわりをもった取組に期待する。また、授業力の向上や学習指導の工夫・改善に向けた取組の深化に期待する。</p> <p>就学前教育に係る検討では、①教育・保育部会の開催②カリキュラム作成委員会の開催ともに目標値をクリアしているため、自己評価「4」は妥当と判断できる。特に、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の策定に関して、幼稚園や認定こども園、保育所の職員の意見も参考にしてビジュアル化カリキュラムを作成したことは評価できる。めざす子ども像を大切にしながらカリキュラムを作成したことなので、今後は就学前教育だけでなく、小学校や中学校も視野に入れ、幼小中と一本筋が通ったカリキュラムに発展していくことを期待する。  保護者、市民、教職員への啓発では、その成果として説明会を3回、講演会を1回実施したことが挙げられているが、感想など参加者の反応が見えてこない。実施したことにより、どのように変容したのか（またはしなかったのか）まで検証する必要がある。そのため、自己評価「4」ではなく、「3」が望ましいと思われる。</p>

<p>4 生涯学習課</p>	<p>生涯学習環境の充実  (1) 生涯学習情報のネットワークの構築  (2) 生涯学習人材情報データベースの充実  (3) 学習成果を社会で生かす仕組みの充実</p>	<p>学校支援本部ボランティアでは、目標値をクリアできなかったものの、27年度と比較して登録者数が増えているため、自己評価「3」は妥当である。これは、登録を促すために全戸に募集チラシを配布して周知を図った成果であろう。今後は、小中学校のニーズに応えるだけでなく、登録ボランティアが自己の力を発揮し、活躍できるような場となることが望まれる。</p> <p>生涯学習アニメーター人材登録バンクは、登録者数を大幅に伸ばし、目標値をクリアすることができているので、自己評価「4」でもよいと思われる。ただ、学校支援本部ボランティアや生涯学習アニメーター人材登録バンクへの登録者数の増加＝生涯学習環境の充実とはいえないところがある。各団体や個人での活動の見える化をより推進し、生涯学習に取り組む市民が増えるとともに、多様なニーズに対応できる人材の発掘を期待している。</p>
	<p>生涯スポーツの推進及びスポーツ環境の充実  (1) 生涯スポーツの推進  (2) 障害者スポーツの推進</p>	<p>スポーツ教室・イベントの充実では、参加者数の減少に歯止めが効いていない。「少子高齢化」「近隣での類似イベントの開催」「マンネリ化」が本当に原因なのか。「スポーツ少年団等の練習や公式戦とのバッティング」「教室やイベントの内容がニーズに合っていない」などは考えられないだろうか。28年度の取組の中で、参加者ニーズや協力者の意向の把握ができたようなので、それらをもとに原因を解明し、対処することを期待する。</p> <p>障害者スポーツ指導員の育成についても同様で、まずはどれだけのニーズがあるのか（指導する方、指導される方の両方）の現状把握が必要である。その上で事業を展開し、障害者スポーツ指導員がその力を発揮する場や障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境が整うことを期待している。</p>
<p>5 人権教育室</p>	<p>研修会・講演会の充実  (1) 市民の人権意識の高揚  (2) 効果的な講演会・研修会の開催  (3) 人権教育推進員の連携体制強化  (4) 学校における人権教育年間指導計画の改訂</p>	<p>人権教育推進啓発事業については、8月月間講演会を計画どおり実施し、結果、参加者数も目標値を超え、参加者の満足度も昨年度と比べても5.3ポイント上昇しているため、自己評価の「4」は妥当と考えられる。</p> <p>人権教育推進啓発事業・人権学習事業では、フィールドワークや体験活動を取り入れた工夫した研修を実施し、目標値を大きく上回っていることから、自己評価の「3」は妥当である。</p> <p>人権教育推進委員・推進員設置事業では、例年並みの参加者であるが、目標値の8割であった。目標値の設定の仕方や新たな参加者の確保について検討を要する。</p> <p>人権教育推進啓発活動事業については、小中学校において年間指導計画の改訂をして、計画的に公開授業研修を実施していることなどから、自己評価「3」は妥当である。</p>

<p>5 人権教育室</p>	<p>人権教育・啓発の充実  (1) 生活と関連付けた人権教育を捉える機会の提供  (2) 人権教育推進委員・推進員が主体的に実施する住民学習の推進  (3) 市民に対する広報・啓発活動の充実</p>	<p>人権教育推進啓発活動事業については、人権セミナー及び人権擁護委員と連携した啓発活動のいずれも目標値に達しておらず、自己評価「3」は妥当とはいえない。  町別学習会、交流会等の住民学習会や各地区定例研修会については、子ども会や町の行事と関連付け参加者の増加を図ったり、人権啓発資料を全戸に配布したりするなど、継続的な取組がなされており、自己評価「3」は妥当と判断される。  今後の課題として、参加者の高齢化や固定化に必ずずる対策を講じる必要がある。また、人権啓発資料の作成・配布以外での広報の工夫も必要で、ホームページ等のさらなる活用が望まれる。</p>
<p>6 中央公民館</p>	<p>公民館講座の充実  (1) 市民の学習ニーズに合う学習機会を講座や教室で多様に提供する。  (2) 公民館で運営実施した教養講座の、市民グループが運営実施する自主運営グループへの移行  (3) 生涯学習まちづくりの推進を支える公民館講座の活性化</p>	<p>公民館運営講座については、多様な学習機会が設けられており、参加者も想定より多く、自己評価の「4」は妥当と判断される。  表記については、ヨガ教室（親子）は、組数とともに人数の記入を、その他の講座については、回数とともに参加人数を表記し、公民館運営講座の総参加者数（延べ）を記入する方がわかりやすい。  公民館自主運営講座についても、講座数とともに参加者数を記入するようにし、市民の参加度を指標とする必要がある。</p>
<p>7 青少年センター</p>	<p>「心のケア」の充実  (1) いじめ・不登校・問題行動の早期発見と早期対応、未然防止  (2) 生徒指導研修会、不登校問題等研修会の改善・工夫による教職員の指導力の向上  (3) 教育相談の充実、適応指導教室における個にあった支援（進路支援含む）の充実  (4) 福祉部局・関係機関との連携の強化</p>	<p>高齢者大学生による地域活動への参加事例数が、例年に比べ大幅に増加していることから、「3」は自己評価が厳しすぎであり、「4」が妥当と思われる。  高齢者大学の主催講座については、ホームページやチラシ等の活用により、全ての講座で参加率が向上したことから、これも前者同様、自己評価は「4」が相当であると考えられる。</p>
<p>7 青少年センター</p>	<p>「生徒指導研修会・中学校区生徒指導研修会」は年間17回開催されており、目標値を大幅に上回っている。内容的にも「いじめ・不登校・問題行動」に加え、今年度から「自殺予防」をテーマとした職員研修会を実施するなど、新たな企画へ積極的に取り組む姿勢も見られる。これらのことから自己評価は「3」であるが、「4」でもよいと思われる。  教育相談事業における面接相談件数は、昨年から68件減少して283件であるが、逆に電話相談件数は昨年から70件の増えて186件となっている。相談件数の多寡だけでは評価は難しいが、この分野の自己評価は「2」ないし「3」といったところが妥当であろう。  不登校児童生徒の出現率は、ここ数年小中学校ともにほぼ横ばいとなっている。しかし、9月からスクールソーシャルワーカーの2中学校区への配置を実現するなど、組織的な支援体制の整備が進んでいることから、教育カウンセリング事業の自己評価は「3」が妥当と思われる。</p>	

7 青少年センター	<p>青少年健全育成活動の充実</p> <p>(1) 「地域の子は地域で守り育てる」ための市民意識の向上</p> <p>(2) 青少年健全育成事業の見直しと活性化</p> <p>(3) 西脇ハーティネス・メンバーズ「子ども見守りチーム」の拡充</p>	<p>青少年健全育成活動の各事業はいずれも目標値を上回り、登録人数・実施回数とも漸増傾向にある。また、青少年センターによる登校時の青パト巡回が昨年の105回から今年は122回に増加している。さらに今年から「インターネットの安全利用に係るキャンペーン」に新たに取り組むなど、熱心な活動状況を評価して、自己評価「3」は妥当であると判断する。</p> <p>西脇ハーティネス・メンバーズ「子ども見守りチーム」は、登録人数が昨年よりも14人増え271人となり、街頭補導・環境浄化活動の実施回数も昨年より76回増えて382回実施されている。「非行防止・安全対策」の分野も充実ぶりが伺われるため、自己評価「3」は妥当であると判断する。</p>
8 生活文化総合センター	<p>資料館活動</p> <p>(1) 資料館活動</p> <p>(2) 小中学校との連携</p> <p>(3) PR活動の強化</p>	<p>郷土資料館の入場者、古窯陶芸館の入場者とも、昨年度から大きく落ち込み、目標値を大幅に下回っている。一昨年10月の図書館移転の影響があることは間違いないが、広報活動の充実、集客力のある特別展の開催、小中学校連携の強化などに積極的に取り組み、これを機により魅力ある社会教育施設に進化することが求められている。資料館活動の自己評価「2」は、期待値を込めて妥当と判断する。</p> <p>小中学校連携は、資料館見学校の増加や、新たに出張授業を開催していることなどから、自己評価の「3」は許容範囲内とする。しかし、単に「子供たちに見せる」だけでなく、来館した生徒が「家族と一緒にもう一度来たい」と思わせるような、ワクワクする仕掛けを期待したい。</p>
9 図書館	<p>図書館資料の充実・図書館利用の拡大</p> <p>(1) 図書館資料の充実</p> <p>(2) 図書館利用の拡大</p>	<p>一昨年10月の新図書館への移転を機に、計画的な蔵書数の拡大、市内6か所の貸出・返却のサービスポイントの設置など、利用者の利便性向上を着実に進めている。また、ボランティアグループと連携して「おはなし会」や「えほんのじかん」を定期的で開催したり、「図書館まつり」などのイベントを開催したりするなど、利用者拡大や読書の啓発活動にも熱心に取り組んでいる。旧図書館時代の平成26年度と比較して、平成28年度は入館者数が約4倍、貸出冊数は約2倍に増加しており、目標値には若干到達していないものの、市民にとって図書館がより身近な存在となっていることが伺われる。</p> <p>以上のことから、図書館活動普及啓発事業、図書館用図書充実事業ともに自己評価は「3」であるがいずれも「4」に相当すると思われる。</p>

## 学識経験者による意見

### 2 元教育委員 大西すず氏による意見

#### 1 課所別の事業点検評価の結果

	平成28年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
1 教育総務課	学校園の施設整備（耐震化の促進） (1) 重春幼稚園の耐震補強等工事 (2) 西脇小学校校舎保存改修工事 実施設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震化対策が急がれる中、重春幼稚園の耐震補強工事が計画に沿って目的値に達し、安心して通園できる環境が整ったことを評価します。</li> <li>・西脇小学校の改修工事については、委員会の答申に基づいて専門性の高い実施設計が進んだことを評価します。歴史的建築物のよりよい保存に向けて市民の深い理解を得られるよう、引き続き進捗状況等について市民への説明を欠かさないようお願いします。</li> </ul>
	学校園の施設整備（環境改善等） (1) 小中学校太陽光発電設備設置工事 (2) 西脇中学校屋内運動場大規模改造工事実施設計 (3) ICT環境整備 (4) 教材備品の整備・充実 (5) 学校園図書の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての小中学校において太陽光発電設備設置工事が完了し、環境教育の教材として、また、非常用電源として対応できるものであることを評価します。地球温暖化等々の対策が子どもたちに向けられたことは、喜ばしいことと考えます。設置しておしまい、ということではなく、いずれかの学年の年間カリキュラムの中に、位置付けて取り上げる、その他全校児童・生徒が集う場所で太陽光発電の意義について触れる機会を設けるといった日頃の心がけをお願いします。</li> <li>・西脇中学校の屋内運動場は使用頻度の高い施設です。実際に管理・使用する学校の意見を十分取り入れ、快適で安全性を追求したものであることを願います。</li> <li>・ICT環境整備については、一般的に多くの課題を抱えています。活用しやすい環境づくりに努めながら、数々の対策を計画的に行って、トラブルが生じないように取り組まれている点の評価します。今後は、活用状況を的確に把握するよう努めていただきたいと思います。</li> <li>・教材備品・学校園図書については、計画的な購入及び廃棄が進められていることを評価します。厳しい財政事情と少子化の流れの中、学校園と調整し、無駄を排除しつつより有効な活用工夫をお願いします。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">2 学校給食センター</p>	<p>給食センター運営についての検討</p> <p>(1) 調理業務の民間委託についての検討</p> <p>(2) 給食費滞納解消対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず現状の給食内容の維持が大切であり、保護者の不安を払拭しながら、高い専門性と安全安心の給食の提供を基本におく必要があります。民間委託については、行政によるチェック体制を確立したうえで、円滑な移行をお願いします。また、先進他市町の経験に学びつつ、無用な混乱が生じないようにしていただきたいと思います。</li> <li>・学校園と連携し、振替納付などの方法で粘り強い取組がなされていることを評価します。経済的理由以外の自己事情による滞納は市民感情からも放置できることではなく、毅然とした対応が必要かと思っています。引き続きよろしくをお願いします。</li> </ul>
	<p>安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供</p> <p>(1) 安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供</p> <p>(2) 食育指導の推進</p> <p>(3) 地産地消の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で栄養バランスのとれた給食が提供できるように努力され、事故と言えるようなトラブルが生じていないことを評価します。職員の皆さんの使命感と取組の結果だと受け止めています。</li> <li>・学校栄養教諭による出前授業の推進により、子どもたちの食への関心が高まっていることを評価します。食育指導が家庭における食生活に効果的に発展するよう、保護者を含めた啓発の必要を感じます。</li> <li>・生産者の高齢化が進む中で、必要量を安定して確保していくことは年々難しくなっていると思われれます。そんな中、生産者と連携した地産地消の地道な努力がなされていることを評価します。</li> </ul>



<p>3 学校教育課</p>	<p>基礎・基本教育・学力向上方策の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活、学習基盤確立への啓発・周知</li> <li>(2) 学力調査（国）の実施・検証・活用</li> <li>(3) にしわき学力向上事業の推進</li> <li>(4) 放課後等の学習支援員の配置</li> <li>(5) 学習指導の工夫・改善</li> <li>(6) 授業力向上に係る研修・部会の充実</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活・学習基盤の確立に向けた啓発・周知については、各学校及び中学校区ごとにその特性にあった取組がなされています。テレビ漬け、ゲーム漬けをはじめとして、子どもたちを取り巻く環境は厳しいものがあります。「早寝早起き朝ごはん」というスローガンが唱えられて久しいのですが、学校通信にも生活基盤の大切さがいつも書かれています。家庭の自覚が根本です。具体的にPTAと連携するなど、家庭への啓発工夫が今一つ必要のように思われます。</li> <li>・学力調査（国・市）の結果を踏まえ、学力向上に向けた教職員の指導力向上などの、具体的で細かな取組がなされています。市のスタンスを確立して、学ぶ意欲を高める学習像を追求していただきたいと思います。</li> <li>・学習支援員による指導については、退職教職員や大学生の支援を受けるなどきめ細かな指導がなされており、学習のつまずきを救う手立てが打たれています。その在り方については、受け身でなく子どもが主体となって学ぶ工夫改善に努めていただきたいと思います。</li> <li>・市教委の指導のもと、各学校においては学習指導の改善に向けた取組が行われ、全体研修においては講師を招へいした研修が行われるなど、前向きな取組がなされていると評価します。大切なのは明日へつながる研修、教育についての深い捉え方に役立つ研修だと思えます。先生一人ひとりの成長は日々接する同僚の先生方の力に負います。働き甲斐のある職場づくりを期待します。</li> <li>・市全体として、学力向上に向けた研修と部会が、計画的かつ継続的に行われていることを評価します。研修成果が各校で全職員で共有されることを願います。</li> </ul>
<p>就学前教育の将来展望を踏まえた質の高い教育・保育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子ども・子育て会議・専門部会による「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」策定に係る協議</li> <li>(2) 保護者、市民、教職員への啓発・情報発信</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市における就学前教育のあり方が総合的に検討され、統一感のあるカリキュラムの策定に向けて協議が重ねられ、研修がなされていることを評価します。いずれの認定こども園にいても同一水準の保育が保障されるということは、こども園の質の維持の点でとても大切です。</li> <li>・教育行政とこども福祉課とが連携しながら保護者・市民・教職員に対する啓発が行われています。市民の関心は、各こども園の特色と教育・保育水準にあります。現場の状況把握・課題を共有していく中で、必要な修正を加えながら就学前教育の追求をお願いします。</li> </ul>	

<p>4 生涯学習課</p>	<p>生涯学習環境の充実  (1) 生涯学習情報のネットワークの構築  (2) 生涯学習人材情報データベースの充実  (3) 学習成果を社会で生かす仕組みの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの媒体を活用して生涯学習のイベントや事業のPRが積極的になされ、着実に参加者増につながっていることを評価します。</li> <li>・高齢化が進み、余暇を地域とつながり合う活動に生かすことで、一層生きがいが強まります。地域づくりに参加したいと願う人の発掘・登録は大きな課題です。引き続き、ネットワークの構築を強力に推進していただきたいと思います。</li> <li>・文化・スポーツ等を通して体験的に知識・技能を蓄積している人は多いと思います。そうした人が各種の事業等でつながり合うためのデータベースづくりはとても重要だと考えます。データベースの充実は活用があつてはじめて功を奏するものです。利活用に努めていただきたいと思います。</li> <li>・市内あちこちで学習成果の発表がなされており、定着しています。中高年の方々の生き生きぶりが窺えます。「だれが」「どんな」活動をしているのか見えにくいのが現状です。広報「ふれあいの広場」「まちの話題」での紹介はとてもよい連載ですが、特別な人でなくてもごくふつうに努力されている人の紹介が広報以外にも様々な形でなされれば一層の改善につながると思います。</li> </ul>
	<p>生涯スポーツの推進及びスポーツ環境の充実  (1) 生涯スポーツの推進  (2) 障害者スポーツの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ教室やイベントへの参加者の減少は見られますが、市民のスポーツへの関心や体力づくりへの意欲は増し続けているので、引き続きスポーツに親しめる機会の提供を期待します。</li> <li>・専門性の高い指導者を招へいしてスポーツ教室を実施し、まちの話題として速やかに情報発信してまちづくりを盛り上げようとする姿勢を評価します。スポーツ愛好家はもちろん、市民にとって生涯スポーツに関心を抱く材料になります。</li> <li>・障害者支援所が開催する運動会等への参加協力は障害者スポーツについて理解できる好機会です。障害者スポーツが日常的に行える環境づくりに向けて、達成目標を設け計画的に取り組んでいただきたいと思います。参加者のニーズを聞き取り、レベルの高さにかかわらず気軽に安心して参加できる呼びかけをお願いします。</li> </ul>

<p>5 人権教育室</p>	<p>研修会・講演会の充実  (1) 市民の人権意識の高揚  (2) 効果的な講演会・研修会の開催  (3) 人権教育推進員の連携体制強化  (4) 学校における人権教育年間指導計画の改訂</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月の講演会の満足度97.5%は、長年にわたるたゆまぬ努力のたまものと高く評価します。「参加してよかった」という思いで参加者各人が問題意識を持つ、その積み重ねが市民の心の豊かさや意識の高揚につながるものと思います。</li> <li>・ 市人教及び地区人教は住民自らが一人ひとりの人権を尊重し合えるまちづくりを目指す組織です。各地区の特性を生かしつつ、市全体の人権の在り方を探るうえで重要な役割を果たしています。その事務局を担当する人権教育室の確かな舵取りは苦勞が多い思われますが、現在の取組を高く評価したいと思います。</li> <li>・ 各地区から人権教育の推進を担う若手の住民を募り、次代の人権への橋渡しを着実にを行うため講座の定期的開催や推進員の相互連携の推進等、地道な取組がなされています。今後は、年齢層や職域等を加味した多様な人材育成を心がける必要を感じます。</li> <li>・ 小中学校における人権学習や人権推進委員による活動の中で、だれもが自分らしさを発揮できる社会を求めたいものです。</li> <li>・ 人権教育年間指導計画が計画的に改訂され、それに基づいて小中学校で授業研究を行なうなどの取組がなされています。道徳教育が教科として変わろうとする中、若手教員の一層の育成が求められており、人権教育を核としつつ道徳性をいかに涵養するか、実践が問われています。</li> </ul>
	<p>人権教育・啓発の充実  (1) 生活と関連付けた人権教育を捉える機会の提供  (2) 人権教育推進委員・推進員が主体的に実施する住民学習の推進  (3) 市民に対する広報・啓発活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報『にしわき』の「心のスケッチ」欄の深い内容の発信は、市民の心のよりどころになっていると感じます。関係機関の努力が窺えます。また、人権月間では例年、小中学生による人権作文が発表され、参加者の心に問いかけ、感動を与えています。私たち自身の生活を振り返る上で大いなる刺激になっています。</li> <li>・ 人権教育室の努力で、推進委員及び推進員が積極的に住民学習を推し進めるスタイルができており参加者も住民本位の学習会として捉えていると思います。</li> <li>・ 人権教育啓発資料「ゆきちゃんからのメッセージ」は骨格・内容ともに整っており、市としての人権教育の積み重ねが行われていることを示しています。</li> </ul>

<p>6 中央公民館</p>	<p>公民館講座の充実</p> <p>(1) 市民の学習ニーズに合う学習機会を講座や教室で多様に提供する。</p> <p>(2) 公民館で運営実施した教養講座の、市民グループが運営実施する自主運営グループへの移行</p> <p>(3) 生涯学習まちづくりの推進を支える公民館講座の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が気軽に利活用できる生涯学習の拠点であってほしいと思います。講座（公民館運営・自主運営ともに）受講生は一定数を保っている状況であり、継続的な努力が見られます。公民館運営講座として新設された講座への参加者が予想を上回ったことや、子ども手芸教室も目標値を上回ったことなど、担当者の努力が窺えます。</li> <li>・利用者がみらいえに分散していることが推測できますが、公民館利用のメリットをアピールすることを期待します。工夫の余地があるように思います。</li> <li>・自主運営講座として自立して運営がなされるまでには人材の問題や運営上の課題等もあり、一筋縄にはいかないと思われま。関係者と十分な協議・調整を行う必要があります。開設してまもなく講座が衰退することがないように、グループ育成の観点から適宜助言と支援をお願いしたいと思ひます。</li> <li>・アンケート実施や要望書などでニーズを把握するなど、より充実した内容の講座開設に向けての熱意を感じます。</li> </ul>
	<p>高齢者大学の充実</p> <p>(1) 学生の学習ニーズを的確に把握し、受講後の学習成果・技術の充実とともに地域でその成果・技術を発揮し、活躍できる講座内容を提供する。</p> <p>(2) 講座の充実と参加率の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にとって、学習成果を地域貢献に生かす事例が増えたことは喜ばしいことです。余暇を地域づくりに生かすのは生きがいにもつながります。高齢化率が増える中、まだまだ高齢者の社会参加が少ない現状です。確かな取組・啓発を通して、元気高齢者が多くなることを願ひます。</li> <li>・高齢者大学主催講座の参加率については、目標値に確実に到達しているのは取組の成果と評価できます。ホームページや主チラシでの情報発信、また、アンケートによる意識付けなどのきめ細かな努力の成果だと思われま。粘り強く取り組んでいただきたいと思ひます。</li> </ul>

<p>7 青少年センター</p>	<p>「心のケア」の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) いじめ・不登校・問題行動の早期発見と早期対応、未然防止</li> <li>(2) 生徒指導研修会、不登校問題等研修会の改善・工夫による教職員の指導力の向上</li> <li>(3) 教育相談の充実、適応指導教室における個にあった支援（進路支援含む）の充実</li> <li>(4) 福祉部局・関係機関との連携の強化</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校・問題行動については、教職員研修に加え、スクールカウンセラーの情報交換会を実施したり、スクールソーシャルワーカーを配置したりするなど、体制づくりに向けた努力がきめ細かになさっている点を評価します。各校及び市として教育相談体制を整えて積極的に取り組んでいることを評価します。事例は多様なので、まず芽が見えかけたときに見逃さずに対応できるように努めていただきたいと思います。大きな問題になる事例では、いつも早期対応のまずさが指摘されています。</li> <li>・中学校の出現率が減少したことはなによりです。学年が上がる程、本音が見えなくなる傾向があります。それは止むを得ないと思いますが、そういう事情を踏まえてなお生徒と向き合える力量というのは、並大抵の努力では身に付かないと思われまます。指導者としてはノウハウではなく、「心に寄り添う」という言葉の奥にある、人間的なまなざしを培っていただきたいと思います。</li> <li>・教育相談事業の充実を期して、新たにスクールカウンセラーの情報交換会が実施されるなど相談事業の改善・充実に向けた取組がなされています。子ども一人ひとりへの対応を丁寧に行おうとする姿勢を評価します。</li> <li>・複雑な家庭事情で学校だけでは対応できない事例が増えています。教職員の多忙さも指摘されています。問題解決に向けた方策を探る関係者協議が一層重要になっています。行政の強いイニシアティブをお願いします。</li> </ul>
	<p>青少年健全育成活動の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「地域の子は地域で守り育てる」ための市民意識の向上</li> <li>(2) 青少年健全育成事業の見直しと活性化</li> <li>(3) 西脇ハーティネス・メンバーズ「子ども見守りチーム」の拡充</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の「子ども見守りチーム」や青パトによる見守りや巡回、声掛け運動は、子ども達にとっても保護者にとっても安全安心のもととなっているほか、市民意識の向上という観点から地域づくりにも大きく寄与しています。</li> <li>・子どもたちのソーシャルボンド活動が定着し、自主的に社会貢献活動をしている子どもたちがまちの中に多くいることを喜ばしく思います。また、児童生徒が主体的に行った募金活動が、各学校で広がったことも学校教育の成果であると評価します。</li> <li>・子ども会活動に関しては、指導者自身が講習会を開催し、子どもたちの体験活動を様々に企画・実施し、リピーターを含め参加者増につながっていることは喜ばしいことです。また、指導者間で子ども会活動の在り方が話題になるなど、大人が目線の高まりを感じます。積極的な取組であり、次年度につながるよう配慮をお願いします。</li> <li>・「子ども見守りチーム」の登録人数が僅かながら増えていることは、担当課の呼び掛けにより、地域の子は地域で守ろうとする意識が確実に広がっているものと思います。引き続きよろしくお願いします。</li> </ul>

<p>8 生活文化総合センター</p>	<p>資料館活動 (1) 資料館活動 (2) 小中学校との連携 (3) PR活動の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の歴史を伝えるための様々な企画の工夫・実施、その地道な努力を評価します。小学生の学習内容に連動した特別展を企画するなどの工夫が見られます。実物に触れることは子どもたちの中に残り続ける体験となることでしょう。</li> <li>・資料館は一般的に地味なミュージアムであって、集客第一といった施設ではありません。後世に人の暮らしを伝える重要な施設で、小中学生には学習で一度は訪れてほしいところです。市内各学校では資料館と連携するシステムがどの程度整っているのでしょうか。近隣市町から毎年のように来館する学校もあるように聞いています。小中学校との連携事業が一層充実すればと願っています。</li> <li>・図書館の移転に伴い入館者は減少しましたが、資料館に関心を持ち、利用したいと願う市民のためにも貴重な施設であると考えます。古窯陶芸館と併せて、さらに積極的なPRや出前講座をするのも一案だと思います。</li> </ul>
<p>9 図書館</p>	<p>図書館資料の充実・図書館利用の拡大 (1) 図書館資料の充実 (2) 図書館利用の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、図書館は市民が多く集まる一番の拠点となっています。市民が本に親しみ、趣味や関心を深めていく最高の空間です。来館者への対応は一丸となって取組がなされていると感じます。団体貸出しの推進、他館との連携など、利用しやすくなっていることを評価します。</li> <li>・ボランティアグループの活発な活動がなされ、子どもたちの利用が盛んである点は高く評価できます。</li> <li>・乳児相談時の絵本のプレゼントは母子にとって心に残る貴重な品になることでしょう。</li> <li>・高齢化率が増える中、高齢者の利用増に向けた対応が大切です。コミュニティバスの利便性のさらなる検討、大活字本の充実等により、高齢者にとって借りやすい環境が整うと思います。これらについてもよろしくお願いします。</li> </ul>